

お忙しい中、第2回学校アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。2学期は大きな行事があり、また様々な取り組みについて工夫を凝らしながら学校運営を行いました。第2回のアンケート結果からは、第1回と比較して改善が見られた点もあれば、引き続き取り組むべき課題も明らかになりました。

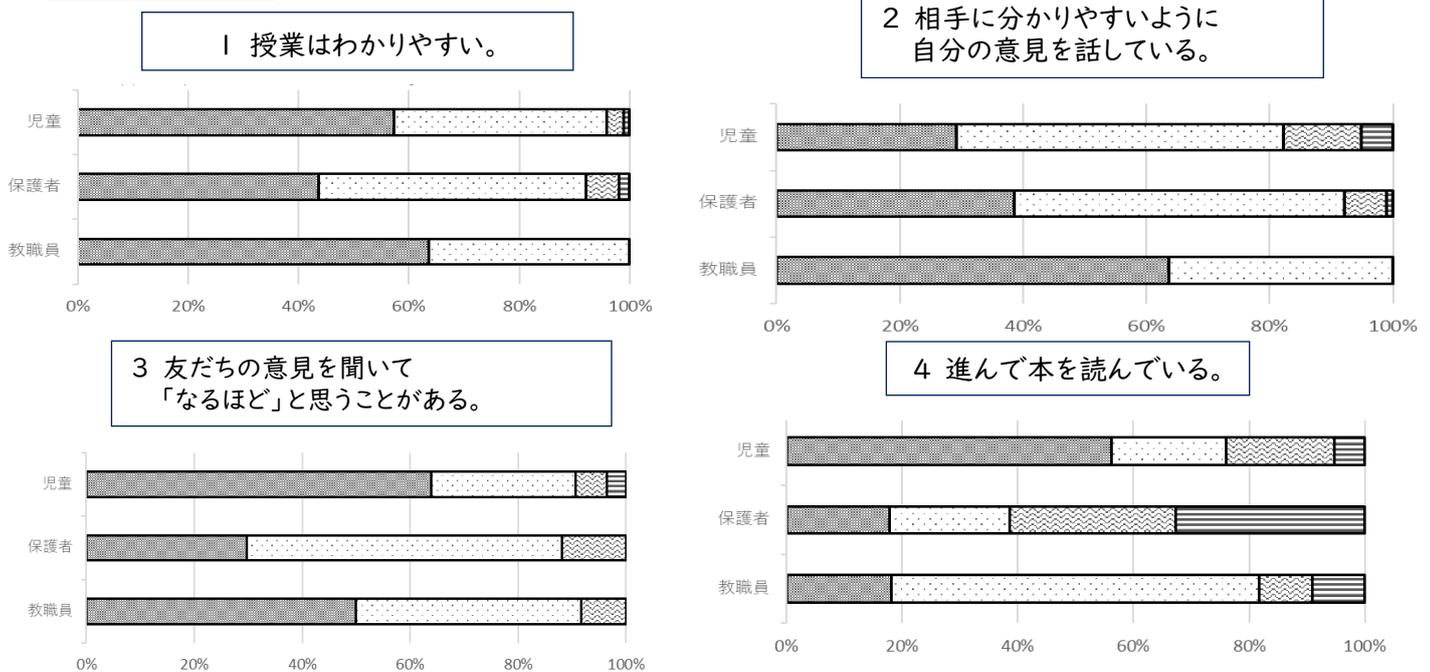
第2回の子どもたちのアンケート結果については、3学期の始業式の日に全校指導として、「成果＝頑張ったところ」と「課題＝まだまだ伸びるところ」として子どもたちに伝えていきます。今後も、保護者や地域の皆様と連携しながら、子どもたちの成長を支える学校づくりに努めてまいります。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、表については、第1回比で5%以上増加しているものを四角で囲み、5%以上減少したところには下線を引いています。

■ 出来ている □ 大体出来ている ▨ あまり出来ていない □ 出来ていない

資料①【確かな学力】～自ら進んで学ぶ子～

・全体グラフの比較



・学年別（低・中・高）の数値（「出来ている」・「だいたい出来ている」を肯定的な意見として割合を出しています。）

質問			1・2年	3・4年	5・6年	保護者
1	授業はめあてとまとめがはっきりしていて分かりやすい。	7月	96.1%	90.3%	92.0%	91.5%
		12月	95.5%	96.3%	95.7%	97.1%
2	相手に分かりやすいように自分の意見を話している。	7月	88.5%	93.6%	70.0%	81.3%
		12月	68.2%	92.6%	83.0%	92.1%
3	友だちの意見を聞いて「なるほど」と思うことがある。	7月	96.0%	90.3%	88.0%	82.8%
		12月	72.7%	96.3%	97.3%	92.1%
4	進んで本を読んでいる。	7月	96.2%	87.1%	56.0%	42.0%
		12月	81.8%	92.6%	63.8%	38.6%

○成果

- ・どの学年も学習のめあてとまとめを意識した授業が展開されている。
- ・中学年、高学年は「友だちの意見を聞いて『なるほど』と思うことがある。」の実現度が95%以上と非常に高いことから、教師の一方的な授業ではなく、学級全体で学習に向かっている様子が伺われる。
- ・中学年、高学年の「進んで本を読んでいる。」の実現度が上がっている。

△課題

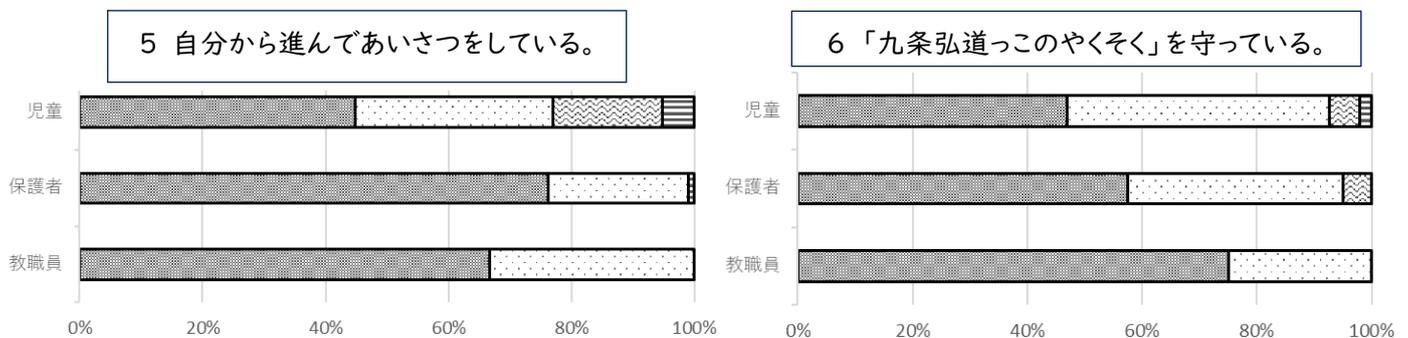
- ・「意見を話す、聞く」の項目で、低学年の実現度が下がっていた。

⇒今後の方策

- ・「わくわくふれあいアドベンチャー」に向けてどの学年も自分の学びを発信する準備を進め、11月ごろには異学年で中間発表交流を行いました。中間発表は、相手に何を伝えたいのか、伝えるためにはどのような見せ方や方法が有効なのか考えるのに良い機会となりました。行事を通して話す・聞く力の定着を目指すことも大切ですが、「話し方」「聞き方」については、日々の授業から大切にしていきたいと思えます。また、子どもたち自身が「できた。」「がんばった!」という実感をもつことができるような振りかえりの方法についても検討していきたいです。
- ・「読書」について、第1回目のアンケートでは実現度が低く心配でしたが、図書委員会の児童や図書館司書さん、図書ボランティアさんとともに、図書館の環境整備や本の紹介、読書週間の取組など読書の楽しみ方を伝えてきました。特に読書週間に行われたPTAや教職員の読み聞かせは、好評でした。今後も授業で図書館に行く日を設定したり、並行して読書活動をししたりする等して、本が子どもたちにとって身近なものになるように読書環境を整えていこうと考えています。

資料②【豊かな心】～自分も友達も大切にできる子～

・全体グラフの比較



・学年別(低・中・高)の数値 (「出来ている」「だいたい出来ている」を肯定的な意見として割合を出しています。)

質問			1・2年	3・4年	5・6年	保護者
5	自分から進んであいさつをしている。	7月	96.2%	90.3%	72.0%	96.2%
		12月	72.8%	88.9%	72.4%	99.0%
6	「九条弘道っこのやくそく」を守っている。	7月	92.3%	90.3%	86.0%	94.3%
		12月	86.4%	100%	91.5%	95.0%

○成果

- ・保護者・教職員ともに、「あいさつ」や「きまり」を大切にし、子どもたちに働きかけようとしている。
- ・「九条弘道っこのやくそく」を大切にしている子どもが多い。

△課題

- ・低学年の「自分から進んであいさつ」が前回よりも下がっている。

・学年が上がるにつれて「九条弘道っこのやくそく」を守ろうと意識することができている。

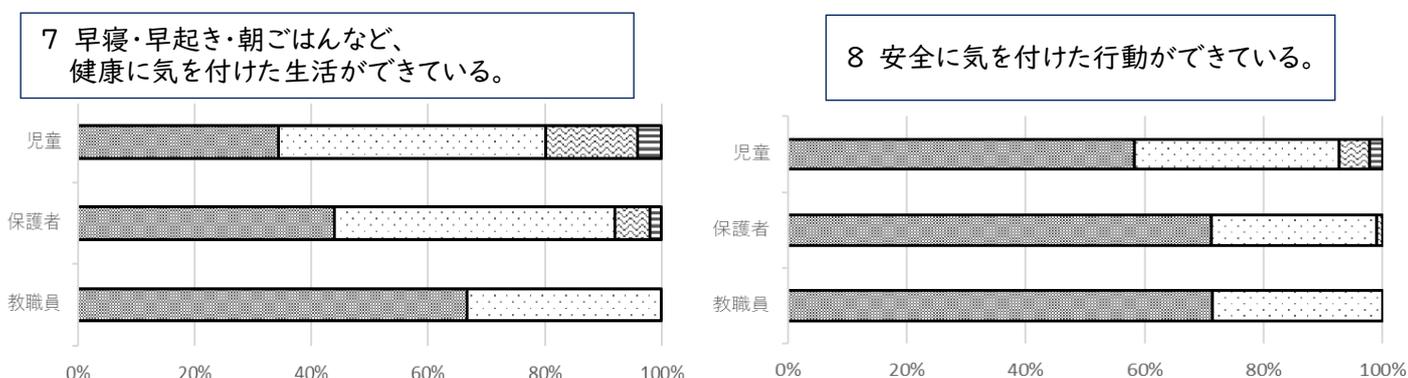
⇒今後の方策

・「あいさつ」は、児童会が中心となり、朝のあいさつ運動をしたり、人権月間でもあいさつについて伝えたりしました。実際に毎朝正門で子ども達を待っていると「おはようございます」と言える児童が増えていたり、今まで自分からあいさつできなかった児童が自分からあいさつするようになってきたりしていると感じています。また、学校生活で「いただきます」や「ありがとうございます」、「よろしくお願いします。」等のあいさつも進んで自分から言うことができている。これからも挨拶については引き続き声をかけていきたいと思ひます。また、子どもたちには日常生活には多くの種類のあいさつがあることを伝え、「おはようございます」や「さようなら」「ありがとうございます。」等も含めて、自分から進んであいさつができるように伝えていこうと思ひます。「九条弘道っこのやくそく」については、生徒指導部・児童会とともに月間目標を作つて意識するよう取組まれました。毎日クラスで振り返ることで、学校でのルールを守るといふことが意識できたようです。

あいさつは地域の防犯を高める効果もあります。引き続き地域・家庭でも見守っていただけたら有難いです。

資料③【健やかな体】～健康でたくましい子～

・全体グラフの比較



・学年別（低・中・高）の数値（「出来ている」「だいたい出来ている」を肯定的な意見として割合を出しています。）

質問		1・2年	3・4年	5・6年	保護者	
7	早寝・早起き・朝ごはんなど健康に気を付けた生活ができている。	7月	96.2%	77.4%	70.0%	83.8%
		12月	95.5%	88.9%	66.0%	79.1%
8	安全に気を付けて行動している。	7月	96.2%	93.6%	84.0%	97.1%
		12月	90.9%	96.3%	91.5%	99.0%

○成果

- ・低・中学年児童は「早寝・早起き・朝ごはん」など、健康に気を付けた生活ができている児童の割合が多い。
- ・児童は安全に気を付けるという意識がもてていて、行動も比較的できている。安全に対する保護者や教職員の意識も高い。
- ・身体計測時の保健指導や毎月の生活指導時の声かけは引き続き行えた。また、「いきいき週間」は時期によって「テレビ等の視聴時間」や「十分な睡眠時間の確保」等、特化する項目を設定できた。低学年・中学年は規則正しい生活習慣を送ることができている児童が多い。

△課題

- ・早寝・早起き・朝ごはん等、健康に気を付けた生活について、高学年に課題がみられる。

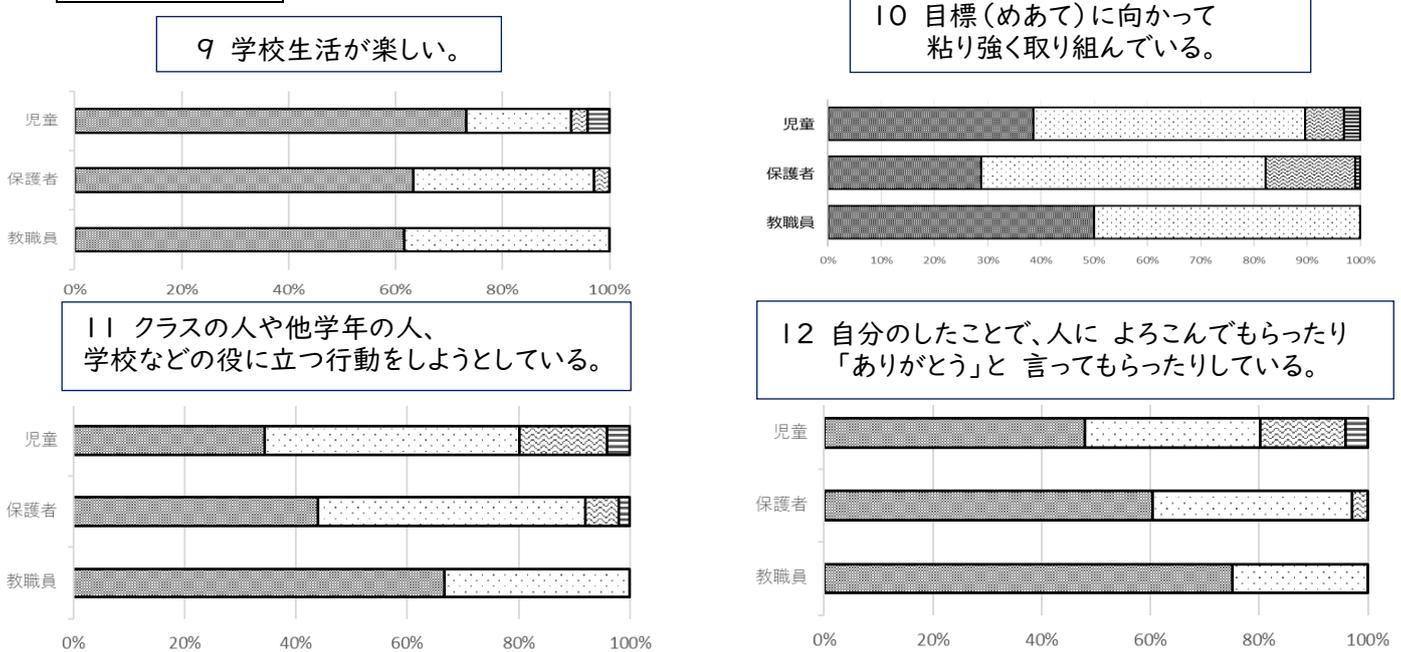
⇒今後の方策

・健康に気を付けた生活について、保護者・教職員ともに意識して児童への働きかけはしています。子どもたちの実態は学年が上がるほど生活習慣が乱れがちです。高学年になれば自分の睡眠時間を確保することから、引き算してその日の過ごし方を計画立てて欲しいと思ひます。2学期のいきいき週間では、学校での児童への声かけ

や保護者の皆様からの働きかけでその週のパソコンやスマートフォン等の視聴時間に改善がみられました。自分たちで気づき、考えて行動できるように、引き続き「早寝・早起き・朝ごはん」や情報教育に関わる内容について指導を進めていきます。

資料④【学校独自アンケート】

・全体グラフの比較



・学年別(低・中・高)の数値 (「出来ている」「だいたい出来ている」を肯定的な意見として割合を出しています。)

質問			1・2年	3・4年	5・6年	保護者
9	学校が楽しい。	7月	100%	83.6%	86.0%	95.2%
		12月	95.4%	92.8%	91.5%	97.1%
10	目標にむかってねばり強く取り組んでいる。	7月	92.3%	93.5%	82.0%	77.1%
		12月	72.8%	96.2%	93.6%	82.2%
11	クラスの友だちや他の学年の役に立てるように行動している。	7月	92.3%	87.1%	72.0%	82.9%
		12月	77.3%	88.9%	76.6%	92.0%
12	自分のしたこと、人に喜んでもらったり「ありがとう」と言ってもらったりしている。	7月	96.2%	90.3%	86.0%	93.4%
		12月	77.3%	85.1%	91.5%	97.0%

○成果

- ・学校生活を楽しく感じている児童が多い。中学年・高学年は前回に比べて実現度が大きく増えた。
- ・中学年・高学年で目標に向かって粘り強く取り組んでいる児童が多い。
- ・高学年は「人に喜んでもらったと感じている」児童が増えている。

△課題

- ・9～12の4項目について低学年で実現度が下がっている。

⇒今後の方策

・2学期以降は、大きな行事や他学年との交流、また、外部講師を招いた授業を展開するなどして、「出あい」や「学び方」を広げる機会を取り入れました。児童は、いつもよりも積極的に活動できており自ら学びに向かうことができていました。学年末には学年の集大成として、クラスのとまりを感じられるようにしたり、6年生の卒業をお祝いする学校全体の取組を大切したりする等して、自己肯定感や自己有用感を高められるにしていきたいと思います。

○上記の指標、分析を学校運営協議会の理事会で報告し、ご意見をいただきました。

- ・子どもたちが楽しんで学校に来ていることがいちばん嬉しい。
- ・今の子どもたちは本当にたくさんの体験をしていることに驚いた。自分たちが子どもの時は学校は勉強するところだったが、いろいろな経験ができてとてもよいと思う。これからもできる限り子どもたちが楽しめるような行事や取組を進めてほしい。ただ、与えられることばかりでなく、自分から楽しいことを見つけていく力も付けてほしい。
- ・自分たちが子どもの時のことを考えると、地域での関わりの中で教えてもらったり学んだりしたことが多かった。それと比べると地域行事は少なくなったが、学校での経験と合わせて地域の中でもいろいろな経験をしてほしい。
- ・豊かな心を育てるのは、挨拶だと思う。「ありがとう」「よろしく」「ごめんね」・・・など、挨拶を自ら進んでする、ということが一番だと思う。地域の者が率先してやっていきたい。下校の時に挨拶をしたら、下を向いていた子どもと目が合う。地域にはそういう子どものことを気にしている高齢者が何人かいる。こういう人たちに支えられて子どもたちがいる、ということを忘れてはダメだと感じる。おつたち運動の様子を見ると、自分から挨拶してくれる子は少ない。継続して挨拶の大切さを伝えたい。おつたち運動については、今後児童数減少も見据えて、地域でも取り組めるとよいと考える。
- ・読書の質問項目については、質問の仕方を変えてみて、別の視点から実現度を計ってみてもよいと思う。